

# オープンホヤホヤ 上海博物館東館へ行こう

浦東新区で2/2(金)に試営業を開始した上海博物館東館。さっそく現場に向かい、施設の様子や見どころをリサーチしてきました。

## 上海博物館東館

浦東新区の「上海科技馆」駅近くに新設された、地上4階、地下2階建ての博物館。人民広場にある上海博物館の別館という扱いで、本オープン後は8つの常設展示と特別展示を設ける。入場には必ず予約が必要だ。

参观预约 >

专项预约 >

微信公式アカウントから必ず予約を!



## アクセス

上海博物館東館  
浦東新区世紀大道1952号  
10時~18時(火曜休館)



微信公式アカウント



## 現在開催中の展示

### 特別展「星耀中国：三星堆・金沙古蜀文明展」

四川省の研究院や博物館と協力し、紀元前1700年間頃の古蜀(四川)文明・三星堆遺跡に代表される三星堆文化に関する貴重な考古遺物を展示する。



### 常設展「中国古代青銅館」

青銅工芸の歴史を、紀元前18世紀から紀元後19世紀という3600年間の長期に渡りまとめあげた展示。500余りの展示物を用いて、青銅文化の発展を記す。

## 予約困難の人気博物館

浦東新区に2月2日(金)オープンした上海博物館東館。現在は仮オープン中で、館内の一部分しか開いていないが、それでも予約を取るのが難しいほどの盛況ぶりとなっている。

同館の入場には必ず予約が必要で、同館微信公式アカウント「上海博物館」から入場用QRコードを取得する。連日満席でなかなか予約が難しいが、毎日12時に7日後の予約枠が解放されるので、その時間を狙って予約してみよう。予約ができたら、入場時にそのQRコードを機械にかざせばOK。指定枠の時間から多少ずれていても、入場できる。

## プレオープンでも見応えあり

現在は常設展示が1つ、特別展示が1つ公開中だ。常設展の「中国古代青銅館」は、3600年間に及ぶ青銅文化が詰まった壮大な展示コーナー。変わって「星耀中国・三星堆・金沙古蜀文明展」は四川省の博物館などから古蜀(四川)文明の発掘物を取り寄せた、開館に相応しい豪華な内容となっている。

同館では今後、「中国古代青銅館」のほかに「中国古代彫塑館」「中国歴代璽印篆刻館」「海上書画館」「中国古代玉器館」「中国古代陶器館」「中国歴代貨幣館」の8つの常設展を設ける予定で、年内にはすべての展示スペースがオープンするという。

今は1~3階の3~5割ほどのスペースが解放されているだけだが、それでもかなり見応えたっぷり。次は実際に東館へ行った様子をレポートしよう。

## 現場リポート

人が多い! 半数は子ども



大人気のイヤホンガイド。ARグラスもあり



1番人気の黄金像

吹き抜けの明るい館内



圧巻の青銅器



不思議なギフトコーナー



至る所にある休憩スペース



カフェなど飲食コーナーも多数

## 大人気のイヤホンガイド

取材班が博物館を訪れたのは春節前の2月7日(水)。予約時間よりも1時間ほど前に到着したが、QRコード提示で問題なく入館できた。

さっそく入口ロビーから何やら混雑しており、圧倒される。入館者が群がっている機械は「イヤホンガイド」(中国語20元、英語40元)で、我も我もという人気ぶり。外国人も、スタッフにパスポートを提示することでレンタル可能だ。ただ同館の微信公式アカウントや、展示物にあるQRコードからも丁寧な解説が読めたり聴けたりするので、そちらで十分という印象を受けた。

ロビー左手には無料荷物預かりコーナーがあり、ベビーカーや重い荷物は預けておく。さらに奥に進むとカフェや出口に繋がる。

## 全行程で2時間ほど

展示コーナーもかなりの人だかりだ。警備員がいるので押し合いなどはないが、子どもが多く少し落ち着かない雰囲気。それでも皆、熱心にガイドを聞きながら展示物を観察している。展示は現物のほか、それを解説するパネルや動画が充実しており、取材班は思わずそちらの方をじっくり読みこんでしまった。

特別展示「星耀中国」は、1、2階に展示物、3階にVR展(要別途入場料)がある。それぞれのスペースは広くないが、距離があるので結構歩く。カフェや休憩スペースがたくさんあるのはうれしいポイントだ。じっくり見て回って2時間ほどで鑑賞終了。すべての展示がオープンすると、鑑賞は1日で終わらないかも!?